

議事録（要点筆記）

会議名	平成27年度 野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会					
開催日時	平成27年6月19日（金）午後1時30分～午後3時30分					
開催場所	野村胡堂・あらえびす記念館ホール					
審議会次第	1 開会 2 挨拶（熊谷町長） 3 職員 4 報告・審議事項 (1) 平成26年度事業報告について (2) 平成27年度事業計画について 5 その他 指定管理者制度導入について 6 閉会					
運営委員出欠状況	会長	澤口 たまみ	欠	委員	住川 碧	出
	委員	太田 愛人	出	委員	山際 正之	出
	委員	鈴木 文彦	出	委員	江藤 秀一	出
	委員	杉本 勉	出			
行政	町長 熊谷 泉			教育長 佗美 淳		
	副町長 藤原 博視			教育部長 森川 一成		
	生涯学習課長 石川 和広			学習推進室長 谷地 和也		
	野村胡堂・あらえびす記念館長 野村 晴一			野村胡堂・あらえびす記念館 主査 高田 美保		

野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会の記録（要点筆記）

開会（副町長）

挨拶（町長）

昨年度は野村胡堂あらえびす記念館（以下、記念館）開館20周年を迎え、たくさんの事業を実施し、皆様にもご協力いただいたことに感謝申しあげる。紫波町の宝の1つは胡堂先生の業績であり、今年開館21年目を迎える当館については、新たな展開が必要な年と考えている。

職員紹介（部長）

<事務局> 本日、澤口会長が欠席のため、代わって佐美淳教育長に進行を務めさせていただくことで了承を得たい。（出席の委員会から了承を得る）

それでは、4からの報告・審議事項からは佐美教育長に進めていただくこととする。

<教育長> 事務局より平成26年度実施事業、平成27年度実施予定事業について続けて報告を願う。

<事務局> 記念館及びNPO法人野村胡堂・あらえびす記念館協力会（以下、協力会）の平成26年度実施事業、記念館の使命（事業展開）及び平成27年度実施予定事業を説明。

<教育長> 昨年度開催した野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会（以下、審議会）において、全国発信＝作文コンクール等の実施というご意見をいただいた。「できることから進めていこう」という考えから、中央公民館（生涯学習課管轄）が実施していた読書感想文コンクールを新たな展開として「(仮) 胡堂・あらえびす大賞～読書と音楽の感想文コンクール（以下、胡堂・あらえびす大賞）」を実施し、まずは町内から、読書支援につながる取り組みも併せて行っていきたい。

<事務局> 平成27年度記念館運営管理に係る予算及び平成26年度入館者数を説明。

<委員> 資料に「記念館ホームページの閲覧者数」をのせてあるが、このホームページはいつから開設しているのか、また閲覧者数の動きをお聞きしたい。

<事務局> ホームページは平成25年度にリニューアルしており、その時点から閲覧者数を押さえている。平成25年度は途中からになるが、8月から3月までで5千人程度。閲覧者数の動きについては、昨年度で1日平均30名程度であったが、今年度に入ってから90名～100名の日もあり増えてきている。

<委員> 同じく資料にある「館内ホールLPレコード（以下、LP）鑑賞者数」は、どういった数字なのか。

<教育長> 月1回行っている「あらえびすレコード定期コンサート」の数ではなく、記念館に寄贈されたLPを入館者がリクエストしてホールで鑑賞した数になる。

<事務局> 入館者がギャラリーに設置しているLPリストから選曲し、職員が対応する形をとっている。

<委員> リクエストする人の割合は、県内・外でどちらが多いか。

<事務局> 県内の方が多い。

- <委員> 協力会の自主事業である「キッズフェスティバル」の事業内容をお聞きしたい。
- <事務局> 今年で10年目を迎える事業になる。芝生、館全体を会場とし、芝生では郷土芸能の発表会、餅つき、館内ではお琴、尺八に触れてもらう機会を設けている。また、昨年度からは夜の星座、昆虫の観察会と事業内容を増やしている。
- <委員> 記念館主催のレコードコンサートと協力会主催のレコードコンサートを分けて行っている理由をお聞きしたい。
- <事務局> 協力会で開催したレコードコンサートは讀賣新聞との共催事業であり、記念館主催の定期レコードコンサートとは別個のものである。別のものだと分かりやすいように事業名を変えている。年1回のコンサートである。
- <委員> これまでの「見て学ぶ」という受け身的なものから、活動する形に少しずつ変えていってはどうか。子どもたちに蓄音機、レコード針に触れてもらうことでいろいろな経験ができると思う。そのことが学びであり、ワクワク感につながるのではないか。「見て学ぶ」、「聴いて学ぶ」から「やってみる」という形に変えていってもいいのではないか。
次に、少子化に伴い「銭形平次」を知らない人たちが増えてくるという中で、おじいちゃん、おばあちゃんが孫を連れて記念館を訪れてもらう企画を考えてはどうか。一緒にレコードをかけてみる、銭形平次を真似て銭を投げてみるといった、活動的で世代に亘って楽しんでもらう企画も考えられるのではないか。
- <委員> 昨年度、宮城谷氏（作家）から寄贈されたCD等（以下、宮城谷氏CD）の整理状況についてお聞きしたい。
- <教育長> 約3千枚という膨大な数であり、目録作成に着手しようとしているところである。整理、活用と併せて行っていきたい。
- <委員> いろいろな形で野村胡堂・あらえびすの業績をもっと広めていければと、昨年「銭形平次」ドラマ化の話をした。現在頓挫している状況であるが、ドラマ化の話がなくなった訳ではないと関係者から聞いている。うまい具合にもう一度盛り上がることを期待したい。
福山雅治さんが「銭形平次」を歌ったCDを発売した。このことをきっかけに、若い人たちに広められればと思う。
- <委員> 記念館ホールの活用について、もう少し音楽活動を展開できるのではないか。昨年も話題に出たが音楽学生の合宿先としての誘致等、話をすすめていったほうがよい。
- <教育長> 音楽大学合宿の誘致については内部でも検討しているところである。
- <委員> 記念館の使命に「町民を中心とした方々の教養を高め」とある。記念館は町が運営しているので「町民を中心」という表現は当然のことだと思うのだが、町民だけでなく全国の胡堂のファン、関心のある人たちにとしたニュアンスにしたほうがよいと思う。
最近、イベント特にお祭りがテレビ等で取り上げられ、神田明神のお祭りもよく見る。神田明神と銭形平次は密接なつながりがあるが、そのことを取り上げられることがなく、現地に行ってみてそのことがわかる。神田明神⇒銭形平次⇒野村胡堂をうまく結びつけることを検討してはどうか。こういったエピソード、イベントがある等の情報を町から提供していく、発信していくことができるのではないか。
- <委員> あらえびすコレクション、岡堂コレクション、宮城谷氏CDリストを世の中へ発

信していくことを具体的に進めていってほしい。

<教育長> 宮城谷氏CD以外のリストは完成している。何をどう発信していくかまた学術的、個人的にSPレコードを聴きたい方を対象に、有料レコードコンサートの開催も検討している。門戸を開放していきたい。

<委員> 協力会主催事業のキッズフェスティバル等拡充しながら、小さいころからの人材育成は、私も必要と感じる。記念館、美術館等は兎角、騒ぐな・触るな・走るな・大声出すな、の禁止事項ばかりである。子どもたちに素晴らしい文化を浸透させるには、リスクそして経費はかかるかもしれないが、腹をくくったアクティブな発想が必要ではないか。また、中学生の職場体験学習として、記念館の学芸員の仕事、管理の仕事を学ぶのもよいと思う。

<教育長> 他にご意見等ある場合は後ほどいただくとして、次第・その他の指定管理者制度（以下、指定管理）導入について事務局から説明させていただきたい。

<事務局> 平成24年度審議会において、「今後仮に指定管理導入をした場合、競争入札をするのではなく、協力会にお願いしていきたい」ということを話題提供させていただいた経緯がある。昨年12月に急遽、指定管理導入の必要が生じたため、今回情報提供するものである。背景、状況を説明。

<教育長> 事業内容、体外的に変わるものはない。

<委員> 実体として変わるものはないのか。

<事務局> 大きく変わるのは、町の職員がここから居なくなり、協力会職員のみになることである。

<委員> 自分はロンドンにあるジョンソン博士記念館の理事をしているが、会議でいつも問題になるのは運営費のことである。町が行う事業は儲けてはならないという縛りはあるのか。

<事務局> 縛りはないが、町で取れるお金（施設使用料等）については必ず議会を通さなければならず、フットワークがどうしても重くなり臨機応変に動けない。運営のために活動費を稼ぐという観点から、指定管理導入＝フットワークが軽くなると考える。

<委員> 胡堂先生が少年少女向けの冒険小説をたくさん書いていたことを今年の企画展で知ったが、これを漫画家またはアニメ化すれば、新たな発信につながるのではないか。併せてホームページについて、野村胡堂の名言、音楽で言えば今月の一曲プラス解説を発信していけばおもしろいと思う。

<委員> 胡堂・あらえびす大賞について、審査、どういった賞を与え、どういった形で発表するのかをお聞きしたい。

<事務局> 資料の胡堂・あらえびす大賞開催要綱案をご覧ください。審査については、教育委員会で委嘱した委員に審査をしていただく。各賞については、若干の副賞を検討したい。

<委員> 過去のやり方ではなく、きちんとした賞の発表の場を持たせたほうがよい。

<教育長> 各委員からの意見について、町長と野村館長から所感をいただきたい。

<館 長> 我々もいろいろ検討しながら事業等を展開しているが、入館者数が減ってきているのはご承知のとおりである。町税を使っての運営ということを認識し、あらゆる手段を使って当館の発信に努めたい。

<町 長> 指定管理導入については、町の予算を削るというわけではなく、仕組みを変えて新たな運営をしていければと考えている。次に、紫波町民がどれだけ記念館を知っているか、訪れているかである。まずは町民自身に、「この記念館は紫波町の宝」だと認識してもらうことが必要であり、その認識がなければ全国への発信につながらないのではないかと。今「オガール」が注目されているが、この機会をとらえて記念館の周知を図っていききたい。

<教 育 長> その他、ご意見はないか。

<委 員> 先ほど話があった胡堂の言葉・名言について、80歳まで生きたので沢山あると思う。その中から今の時代にあった言葉を探すのがよいのではないかと。

閉会（副町長）